

国語

第1問 問6 (ii)

複数の文章を関連づけて考える設問で、各学力層で差がついた

問6 Mさんは授業で「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」を読んで、「言葉」について自分の考えを整理するため、次のような「メモ」を作成した。これについて、後の(i)・(ii)に答えよ。

【メモ】

言葉と思考
言葉の働き
「駆け」
「走る」
※まとめ
【文章Ⅰ】
短歌における
※全体のまとめ

(ii) Mさんは「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」を読んで、「言葉」について自分の考えを整理するため、次のような「メモ」を作成した。これについて、後の(i)・(ii)に答えよ。

11

④ Mさんは「文章Ⅰ」と「文章Ⅱ」を読んで、「言葉」について自分の考えを整理するため、次のような「メモ」を作成した。これについて、後の(i)・(ii)に答えよ。

① 学問領域において困難な問題を解決するためには、複雑さや曖昧さを本質とする自然言語の使用が前提となる。一方、短歌などの文字においては、言葉の曖昧さが表現における障壁となる。作者は自らの個別的な思いを表出しなければならぬが、多様な意味内容をもつ言葉では、具体的な感情を描くことが難しい。

② 学問領域において深く柔軟な思考をするためには、多様な自然言語を使用しなければならぬ。一方、短歌などの文字においては、膨大な言葉の中から具体性をもつ言葉を取捨選択しなければならぬ。作者の特殊な思いを明確に伝えるためには、曖昧な言葉の使用を控えて生き生きとした場面を描くことが求められる。

③ 学問領域において複雑な問題に関する思考を自然言語で行うことは困難を極める。短歌などの文字でも同様に、複雑さや曖昧さを本質とする言葉を使いこなすのは困難だ。ただし、作者独自の感情を伝えるためには難解な言葉の使用が避けられないため、言葉に対して真摯に向き合う姿勢が新たな表現を可能にする。

④ 学問領域において正確かつ柔軟な思考をするためには、自然言語の膨大な蓄積が必要となる。短歌などの文字でも同様に、一般的な言葉にとどまらない豊かな言葉に支えられて表現が可能となる。作者独自の思いを表出するには、膨大な言葉の中から言葉の選択と組合せを熟考し、具体性を追求することが鍵となる。

第1問 問6 (ii)

正解率	59.3%
SS70~75	87.6%
SS65~70	82.8%
SS60~65	77.9%
SS55~60	73.0%
SS50~55	66.8%
SS45~50	58.5%
SS45未満	37.5%

結果分析

第1問は、言葉について述べられた二つの文章について、Mさんが考えを整理するためにまとめた【メモ】を題材にした出題でした。

(ii)は【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】から導かれる全体のまとめについての設問で、特に偏差値45を境に【メモ】の内容を踏まえて二つの文章の共通点を抽出・抽象化することができていないことがうかがえます。

指導のご提案

共通テストでは、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた複数の題材による出題が見込まれます。このような問題では、それぞれの文章の論旨をきちんと捉えたいうえで、設問の指示に沿う形で情報を取り出し、関連づけたりすることが求められます。

実践形式の類題演習のご提案ページへ

2022年度第1回ベネッセ・駿台
大学入学共通テスト模試

「国語」

受験者数: 354,266人
平均点: 101.3点
標準偏差: 31.6